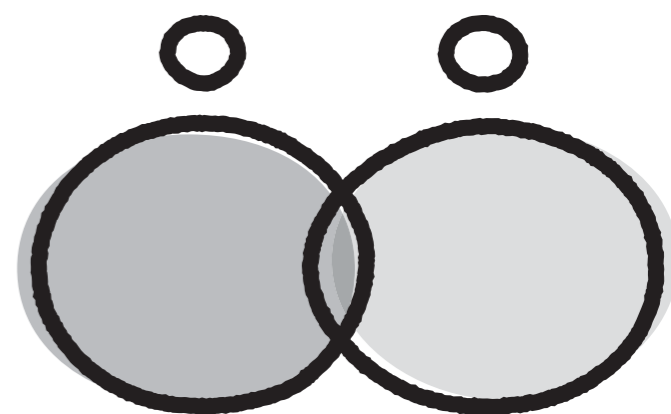


わたしたちに 今できることは何か 見て 聞いて 考えた。



今できること プロジェクト

【被災地視察バスツアーレポート】

被災地を訪ねることで わかりあえることがある。

今できることプロジェクトは11月15日、宮城県南の被災地を巡る「被災地視察バスツアー」を実施しました。当プロジェクトの賛同企業にご参加いただき、津波で被害を受けた沿岸部の課題や企業の災害対策状況などを学びました。詳細は今できることプロジェクト特設サイトでもご紹介します。

震災から学び 事業継続策を強化

【東北リコーBCPセミナー】

震災では企業活動の停止によって経済がまひし、物資が不足して市民生活にも大きな影響を及ぼしました。そこで関心が高まったのがBCP(事業継続計画)。災害などの緊急事態が発生したときでも事業を中断させない、または速やかに復旧できるように備える計画です。ツアーでは震災前からBCPを策定していた東北リコー(宮城県柴田町)を訪ねました。総務室の鈴木薫さんから「東日本大震災に遭遇して、実体験から学んだこと」と題してお話いただきました。鈴木さんは、被害が想定を大きく上回った一方、BCPを基にして早期復旧できた経緯を説明し、「事前の訓練や想定が役立つのは一部。想定外の問題を解く力が必要だが、だからこそ日常の演習が重要」と強調していました。



東北リコーでは、災害時の対策や震災後の復旧対応を学んだ

海産物は風評の壁 いちご団地に希望

【亶理町沿岸部】

参加者は宮城県亶理町の「浜寿司」で昼食をいただきました。同店は津波の被害に遭って全壊しましたが、全国からの支援を受けて今年4月に移転再開。12月までは名物ほらこ飯の旬で、ツアー当日も多くのお客様でにぎわっていました。その後、沿岸部の被災状況を視察。同町であられづくりを手掛ける「みやぎのあられ」専務の石田亮平さんがガイドを



津波被害を受けた農地ではイチゴ生産団地を造り、復興への足掛かりにしている

被災農地にハウス 後継者づくりに挑戦

【水耕栽培の新工場】

名取市では、津波による塩害農地に建設された野菜工場を見学しました。被災した農家の瀬戸誠一さんらが農業法人さんいちファームをつくり、運営しています。

同社は同市植松で津波を被った水田を借り受け、ハウス3棟を建てました。栽培面積は計6000平方メートル。地植えをしないため、塩害農地でもすぐに生産を開始できる水耕栽培という栽培方法により、ホウレンソウやレタス、ハーブなどの葉物野菜を中心に生産しています。水温を一定に保つ設備をそろえ、従業員を雇って徹底した管理を行っています。

瀬戸さんは元会社員。兼業農業だったそうです。もちろん水耕栽培は初めての経験です。資金繰りの難しさや売り先確保の苦労を越えて徐々に支援者を増やし、売り上げを伸ばしています。「安定した収入を得られる仕組みを作り、農業の担い手となる後継者を育てたい」と張り切っていました。



水耕栽培の仕組みを見学し、農業再生への展望や課題を聞いた

被害集中した地域 再建に多くの課題

【名取市閉上】

名取市議の荒川洋平さんに、津波で大きな被害を受けた同市閉上地区を案内していただきました。同地区は約7100人が住んでいましたが、震災で750人以上が犠牲になりました。同地区出身の荒川さんも母親と弟を亡くし、復興に向けて活動しています。

同市は区画整理による「現地再建」を目指していますが、賛同する住民以外に内陸部での再建や移転を希望する住民もあり、合意形成が難しくなっています。また、被災した同市小塚原地区など区画整理と集団移転の対象から外れている地域もあり、住民が不安を募らせていることも伺いました。

荒川さんは「閉上は今後の街づくりについて住民の意見が割れ、難しい問題を抱えている。地元を離れる若者が後を絶たないが、若い世代に戻ってきてもらえるよう努力したい」と話していました。



荒川市議からは閉上地区の被害状況や復興の様子などを聞いた。現地再建か、内陸移転かで被災住民は揺れている(名取市の日和山)

参加者の声

(株)エイチ・アイ・エス東北・北海道事業部 遠藤正巳さん
復興が進んでいると考えていたが、実際はまだまだ時間がかかることが分かりました。会社として、個人としてできることを考えていきたい。

東北三菱自動車販売(株) 佐藤久見子さん
お話を聞いたみなさんは、悲しみをばねに前へ進んでいました。今回のように五感を使って現状を振り返る機会が増えればと思います。

住友生命保険相互会社 仙台総支社 石井巧さん
復興はスピードが重要だと思っていた。ただ地域再建のように人の気持ちがかかわる問題は合意形成が難しく、時間も必要だと気付かされました。

●私たちが、被災地支援のため「今できること」とともに考え、このプロジェクトを推進していきます。

IHI/アヴィエスホーム/アサヒビール 東北統括本部/いのちの電話 震災ダイヤル/岩手日日新聞社/岩松旅館/エイチ・アイ・エス/NTTデータ東北/鹿島建設 東北支店/キンビールマーケティング 東北統括本部/ケースデンキ/コセキ/サッポロビール 東北本部/サントリーピア&スピリッツ 東北支社/JA全農みやぎ/JT 仙台支店/鈴木工業/住友生命 仙台総支社/住友林業 仙台支店/青南商事/セキスイハイム東北/石油連盟/仙台コカ・コーラボトリング/仙台商工会議所/仙都タクシー/第一生命 仙台総合支社/大東住宅/タゼン/東海東京証券/東北三菱自動車/一般社団法人 日本手芸学会/日本政策金融公庫 仙台支店/日本製紙/日本製紙クレシア/日本生命 仙台支社/はとバス/東日本大震災事業者再生支援機構/ビルワーク/富士フィルムグローバルグラフィックシステムズ/ベルモードスズキ/ペロタクシー/北洲ハウジング/ホテル佐勤/三井物産/三菱地所グループ/宮城県遊技業協同組合/みやぎ生活協同組合/宮城第一信用金庫/宮城中央ヤクルト販売/明治安田生命 仙台支社/リコージャパン 東北営業本部/河北新報社(順不同)

◎後援/宮城県、仙台市、宮城県市長会、宮城県町村会、宮城県教育委員会

【お問い合わせ】今できることプロジェクト事務局/河北新報社営業部 tel 022-211-1318